

インフォメーション

問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp

ロッカー・レターケース 利用者募集

使用期間：2017年9月1日～2018年8月31日
対象：継続的に市民公益活動を行っている団体(事業者を除く)
応募方法：市民活動サポートセンターで配布する申込書・団体紹介シート・システム情報入力シートに必要事項を記入し、団体の活動内容がわかる資料を添付して1階窓口にお持ちください(ホームページからダウンロードできます)。※ロッカー利用団体は公開抽選会で決定、レターケース利用団体は先着順
申込み受付期間：2017年7月6日(木)～21日(金) 9:00～21:00(日曜・祝日は17:00まで)

貸出/募集数	使用期間	使用料	対象
ロッカー(大)/10[抽選]	2017年9月1日～ 2018年8月31日	1,200円/月	継続的に市民公益活動を行っている団体(事業者を除く)
ロッカー(中)/28[抽選]		810円/月	
ロッカー(小)/80[抽選]		400円/月	
レターケース/168[先着]	無料		

マチノワラボ Vol.2 都市をたたく!?—これからの都市政策とは—

日時：7月24日(月) 18:00～20:00
内容：東日本大震災、少子高齢化、貧困、ソーシャルビジネス、新たな地域経営。社会の課題は複雑化し、課題解決の担い手は多彩さを増しています。マチノワラボは、そうした現状の理解を深め、先進事例から学び、持続的な地域づくりを考える未来志向の場です。参加する人同士の対話を通して、仙台や東北そして社会の課題にアプローチします。今回のテーマは「都市をたたく!?」。縮小する都市社会において、土地利用の空洞化がランダムにかつスポット的に起きる様子をスポンジにたとえ、都市構造の解説と対応事例からこれからのまちづくりを探ります。
会場：仙台市市民活動サポートセンター 市民活動シアター
ゲスト：饗庭 伸さん(首都大学東京 都市環境科学研究科 都市システム科学域 教授)
定員：50名
対象：地域の課題に取り組む市民・企業・行政。セクターの壁を超えて課題解決やまちづくりに取り組みたい方など。
参加費：500円(1ドリンク付き)
主催：仙台市市民活動サポートセンター、(特活)都市デザインワークス
共催：(一社)パーソナルサポートセンター、(特活)せんだい・みやぎNPOセンター
申込み先：(特活)都市デザインワークス TEL 022-264-2405 Mail info@udworks.net



マチノワ縁日 2017年7月29日(土)9:00～21:00開催

会場：仙台市市民活動サポートセンター
まちづくりを担う多様な主体と連携し、仙台で行われている協働の取り組みやまちづくりの事例を、トークイベント、ワークショップ、展示などの企画で紹介するイベントを開催します。詳しくは、チラシまたはサポートセンターホームページをご覧ください。

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは
様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください
ボランティア活動をしたい/団体を立ち上げたい/組織運営の悩みを解決したい/他の団体や他のセクターと連携したい/自分のスキルを地域や社会に役立てたい...

今月の休館日：7月12日(水)、26日(水)

開館時間	月曜日～土曜日 9:00-22:00
	日曜日・祝日 9:00-18:00
休館日	毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ/地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
[HP]http://www.sapo-sen.jp [Blog]http://blog.canpan.info/fukkou/ [Twitter]@sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

市民ライターや学生記者が、仙台の市民活動団体やワクワクビトを取材しています！
▶市民ライター
http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1
▶情報ボランティア@仙台
https://ja-jp.facebook.com/jyoho.volunteer.sendai

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。
▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっとと読者アンケート] サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等でQRコードを読み取ってご利用ください。

発行 仙台市市民活動サポートセンター
発行日 2017年7月1日
編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 太田貴 菅野祥子 松村翔子 鈴木美紀 宮崎真央 小野真璃子
発行部数 3000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと 7

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2017 No.215

「ぱれっと」には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月の
ワクワク
ビト
鍵盤楽器奏者
さいとう
齋藤 めぐむ さん(36)

商店街でつむぐメロディ
音楽を道行く人たちのそばに

仙台市中心部「マールロードおおまち商店街」の東側入口、地上10mの高さにあるアーチ門内部には、商店街のシンボルとして親しまれているオルガンがあります。齋藤さんは月に1、2回、このオルガンの定期演奏を10年以上続けています。
齋藤さんが演奏するようになったのは、商店街が演奏者を公募した時に父親のすすめで応募したから。オルガンに厳かなクラシック音楽のイメージを抱いていた齋藤さんは、はじめは自分に弾けるか不安でした。しかし商店街には、クラシック曲だけではなく、流行や季節に合った歌謡曲やポップスを選ぶと喜んでくれるお客さんの姿がありました。
商店街は、いろいろな人が行き交う空間です。幼い子を連れた家族など、周囲に遠慮してホールでの演奏会には行きづらい人もいます。「普段、生の演奏に触れることができない人たちにも音楽を身近に感じてもらえる」と齋藤さんはやりがいを話します。「より多くの人と音楽を共有したい」。齋藤さんが奏でるメロディにはそんな思いがのっています。

取材・文 市民ライター 生沼未樹



特集
地域を面白くするヨソモノにまちを開く
週末一軒家プロジェクト

Dozen Notes(ダズン・ノーツ)
HP http://12notes.jp/
演奏・制作の問い合わせ megmusic1980@gmail.com
齋藤さんは、普段は石巻市出身のクラリネット奏者、金田祐介さんとともに音楽ユニットDozen Notesとして活躍しています。仙台、石巻でマンスリーライブを開催しているほか、仙台駅前やフェリー船上など様々な場所でコンサートを開催しています。
演奏情報は、齋藤さんのブログをご覧ください。https://ameblo.jp/meg-takeoff/

地域を面白くするヨソモノにまちを開く 週末一軒家プロジェクト

2017年4月、青葉区中山5丁目に築40年の木造2階建ての空き家を活用した「中山モダンハウス」がオープンしました。2階をシェアハウス、1階の洋間と和室をイベントスペースとして一般に有料で貸出しています。町内会や商店街、ヨソモノが協働で始めた新たなチャレンジを紹介します。

有限責任
事業組合
モダンタイムス



いわま ゆき
岩間 友希さん

一軒家暮らしを
楽しみたい



ぬまた さわこ
沼田 佐和子さん



ねもと そういちろう
根本 聡 一郎さん

中山地域

<共有の課題解決機能>

NPO法人中山街づくりセンター

商店街を
利用する人たちを
増やしたい

商店街の
課題

地域の
課題

多世代が助け合う
安心・安全な
まちにしたい



NPO法人中山
街づくりセンター 理事
なかやま商店街振興組合
専務理事
ちば ひろたか
千葉 裕貴さん



NPO法人中山
街づくりセンター 副理事長
中山学区連合町内会
副会長
みやけ ひでお
三宅 偉雄さん

週末に多様な人たちが集う

中山地域は、中山本通り沿いに約80店が並ぶ商店街があり、5,145世帯(平成28年仙台市)が暮らす住宅街です。高齢化に伴う空き家問題、若い世帯の減少などを背景に、「中山の地域づくりを考えよう」と、なかやま商店街振興組合と中山学区連合町内会のメンバーが一丸となり、まちづくりに取り組んでいます。2016年1月には、両者でNPO法人中山街づくりセンターを設立。共有の課題解決を図るための場として機能しています。

中山モダンハウスは、一軒家暮らしを楽しみたい若者と、地域の人たちが交流するみんなの家です。始めたのは、沼田佐和子さん、岩間友希さん、根本聡一郎さん。20代～30代で、普段はまちなかに住みながら、週末は中山に通います。「週末だけとは言え、地域に根差した活動にしたい」と、3人で有限責任事業組合モダンタイムスを立ち上げ運営しています。家庭菜園を楽しんだり、食事会を開いたり、地域の人や入居者、中山地域外の人たちで賑わいます。空き家活用は、地域の防犯対策にもつながっています。

まちづくりの担い手が、世代と地域を越え連携

中山地域は、仙台の郊外住宅団地の草分け的存在として、1964年から大規模な団地開発が行われました。最初の住民として中山に移住した三宅偉雄さんは「自分たちのふるさとをつくらう」と奮闘してきた世代。地域への愛着を育む夏祭り「中山とびのこまつり」は、今年で43回目を迎えます。千葉裕貴さんは、その子ども世代。資金調達や外部交渉、住民の合意形成など、目的によって商店街と町内会が互いに補填し合いながら、世代を越えて共に汗をかきました。

モダンハウスメンバーは2016年、市主催のまちづくり講座で出会いました。フィールドワークで中山地域を訪問。案内役を買って出た千葉さんは、空き家を2軒紹介しました。「地域で何か面白いことをしたい!というヨソモノを中山に呼び込みたかった」と、狙いを話します。沼田さんは「レトロな一軒家に一目惚れした。一軒家暮らしの温かみを感じ、みんなで借りれば維持できると思った」と振り返ります。千葉さんは、新たなまちづくりの担い手と地域をつなぐと、住民に声を掛け、モダンハウスの家財を募集。「役立ててもらえたら」と、思い入れ



連絡先

・有限責任事業組合モダンタイムス
Mail info@home-weekend-home.link
TEL 090-6850-3853(運営:沼田) 090-5396-8259(運営:岩間)
・NPO法人中山街づくりセンター/なかやま商店街振興組合
〒981-0952 仙台市青葉区中山4丁目14-35
TEL 022-303-8731 FAX 022-719-0631

のある家財が次々と寄せられました。岩間さんは「地域の人たちの顔が見えた。対話の場を大切にしたい」と目指すところを話します。

週末の非日常から生まれる、次世代の担い手

ひとり暮らしでは、縁がない又は煩わしく感じてしまう人も多い、町内会活動や商店街とのお付き合い。根本さんは「週末だけの一軒家暮らしは、非日常。地域の人たちとの触れ合いは、むしろ新鮮で楽しい」と新たな地域との関わり方を探ります。「中山は実験ができるまち」と千葉さん。「できない理由」ではなく、「どうしたらできるか」と突き進んできたまちの歴史が、まちづくりを担う新たな世代の背中を押します。三宅さんは「若者たちの姿が、ふるさとづくりにまい進していた頃の自分と重なりワクワクする」と次代のふるさとづくりに意気込みます。(取材・文 松村翔子)

集まる人が主役です。本音を話せるオレンジカフェ

認知症の方や家族が地域で安心して暮らすには、周囲の人たちの理解と支援が不可欠です。理解の促進と支援の場として、親しみやすいオレンジ色をシンボルカラーに、当事者と地域住民が交流をする「オレンジカフェ」が全国各地で設けられています。

高齢化が進む宮城野区鶴ヶ谷には、認知症や体の不自由な方が多くいます。鶴ヶ谷で暮らす遠藤暢英さんは、2016年9月にオレンジカフェ「鶴ヶ谷」を発足させました。鶴ヶ谷市民センターを会場に、毎月1回認知症の方やその家族、地域の方など10名程が集まります。身体に障がいのある遠藤さんは、当事者が普段、周囲に遠慮し外出することや気持ちを伝えることが難しいことを知っています。「集まれた方が主役」をモットーに、立場や肩書きを超え、悩みや本音を言い合える場を目指します。参加者の「行くところができて嬉しい。悩みなどが話せてよかった」という声は、何よりの励み。高齢化が深刻になる中、活動を次世代に引き継ぎながら続けようとしています。

「もし自分や家族が認知症になったら」と考えると漠然とした不安が募ります。当事者の集まれる場所があると知り、安心しました。誰もが老いとは無関係でいられないからこそ、認知症の理解を深めたいと思いました。



▲認知症について楽しく学べる紙芝居の上演。歌や方言も交え、和やかな雰囲気でした。

■連絡先
オレンジカフェ「鶴ヶ谷」
TEL 090-6452-7576 (遠藤暢英)

企業人とシニアのための市民活動入門

著者:早瀬 昇 出版:社会福祉法人 大阪ボランティア協会

ボランティアに興味があっても、「私に出来る?何をすれば良い?」という不安が実際の行動にブレーキをかけてしまう。そんな人のために、本書は、「ボランティアは自発的活動なので、好きな時に好きなことや得意なことでも活動すれば良い」と背中を押してくれます。「仕事で得た技は、ボランティアにも生きる」とアドバイスします。ボランティアを始めようとしているすべての方にオススメです。



病気の子どもと家族を支えるボランティア募集

ドナルド・マクドナルド・ハウスせんだいは、病気と闘う子どもとその家族が利用できる滞在施設です。運営を地域のボランティアが支えています。活動内容は、事務ワーク、ハウスキーピング、植栽のお手入れなど。問い合わせ ドナルド・マクドナルド・ハウス
TEL. 022-391-1233
Mail dmh.sendai@siren.ocn.ne.jp



畑のある生活をしよう。 三本塚市民農園利用者募集。

自分で畑を持つ以外にも、バーベキュー、漬物作りなど、利用者同士が交流できるイベントがあるのが特徴の農園です。ご希望の方はご連絡下さい。仮設トイレ、手洗い水道、貸出農機具(使い方指導あり)、1区画25㎡(5m×5m)、利用料月額1,000円。
申込み・問い合わせ 一般社団法人 ReRoots
TEL 022-762-8211 (若林ボランティアハウス)
Mail reroots311@yahoo.co.jp

